

仕舞謡大成
全

特57
559

94
264

074999-000-8

特57-559

仕舞謡大成

観世 清廉/著

M37

CEL-0923



特 57 三
559



此書由
那以依
之



深文
高心
之氣

其
心
持
之
情

一
子
之
師
也
也

能
之
習
不
為
也

身
之
好
也

曲流の形と

柳舟もむさ

つらつら
ゆれ

か
ゆれ
那梨

和名

凡例

一 此書は其名の如く仕舞を舞見とする人の便を計りて著はしたるにて師を得ると同時に要用歛くへからざるものなり。

一人あり、田村のクセを請へば先づ『さぞな名よしおふ』と舞ふ人其者よ一旬謡はせ『花の都の春の空』と地を付けると同時に、シテは始めと立上るとなすが、又難波よそも其如く『あら面白の音楽や』と舞ふ人自からよ謡はせて『時の調子こたどりと』より地を付くらむと此例多くあり。

一 更々又ワキの謡ふべきは皆地

よて謡ふ事あり。例令ば春日龍神
の『扱入唐は』『ワキ』と『もろくべし』『地』『渡天
は如何』『ワキ』『渡るまじ』『地』『扱佛跡は』
『ワキ』『尋ぬまじ』『や』の扱まはは皆地よて謡
ふものなり。猶通ふ所よてはツレの所
を地のみよてアシラフ事とあり。

一 葵よまきりては『おもひ〜らすや』
『思ひ〜れ』とシテ其者が謡ひて『う
らめし〜の心や』と地を付くると即ち
神子の謡ふ入る『思ひ〜らすや』と
シテか謡ふなり。心籠とては其如く
『山も震動、海もなり、雷火もみだれ、
悪風の』と舞ふ人か一氣に謡ひて
紅煙の旗を』と地を付くらなり。

一 茲よ又或者は文句を抜く事あり。

例令ば女郎花のクセなり。扱は『まは
ろ〜たが〜まきりたり、跡吊ひてた
ひ給へ〜』『よ〜』『邪嬢の悪鬼は身
を責めて』と後くらよて取ら直さ
す『あら〜間深〜ひ〜や』の文を割
らなり。のみならず、『邪嬢の悪鬼は
』の扱〜をも謡はぬなり。是れよ
類したるは『船橋よて同〜』か
つはと『落ちと洗みけり』の次『東路
の、この、舟橋、取はな〜おや〜』と
くれば、いもよ途はぬかも』の文を扱
きて直ちよ『執心の鬼となつて』と
シテが謡ひ、其返しも割ら跡は其
儘地を後くらなり。

一 以上は仕舞の『就いとまよ』の扱の

異同の一斑を現はしたるよと、猶委しくは各自其際より教へを乞はるべし。終りの一言すへき事は、此書は、帝よ仕舞謡のみならず、獨吟一調等よも又便なり。

明治三十七年二月

著者識

内之目錄

高砂	初丁	田村	初丁
江口	三丁	斑女	四丁
鷓鴣	五丁	難波	七丁
兼平	七丁	千手	八丁
紅葉狩	九丁	老松	九丁
井筒	十丁	三井寺	十丁
天鼓	十一丁	白樂天	十二丁
賓盛	十三丁	楊貴妃	十四丁
玉葛	十五丁	融	十五丁
峯老	十六丁	清經	十七丁
宋女	十八丁	通小町	廿丁

禪丸 寺 狸 寺

佛原 寺 善知鳥 寺

小藍 寺 邯鄲 寺

殺生石 寺 野宮 寺

錦木 寺 唐船 寺

弓八幡 寺 羽衣 寺

芦刈 寺 敷盛 寺

葵工 寺

床木之形

賴政 寺 八嶋 寺

以上内

外之目錄

江嶋 初丁 九世戶 二丁

代主 初丁 西王母 三丁

送第 二丁 經政 四丁

道明寺 三丁 已 六丁

簾 五丁 已 六丁

嵐山 七丁 卷絹 七丁

花月 九丁 鐘植 十一丁

頂羽 十一丁 熊坂 十三丁

小督 十二丁 野守 十五丁

鐵輪 十三丁 藍染川 十七丁

雲雀山 十八丁 谷行 十九丁

半薨 廿丁 車僧 廿二丁

吉野天人	廿三	大瓶狸	廿三
鶴龜	廿三	東方朔	廿三
春榮	廿三	舍利	廿三
小鍛治	廿三	合甫	廿三
生田敷盛	廿三	草紙洗所	廿三
六浦	廿九	松山鏡	廿三
金札	廿三	大江山	廿三
岩船	廿三	知章	廿三
俊成忠則	廿三	七騎落	廿三
弱法師	廿三	弦上	廿三
和布刈	廿七		

以上外

別能目錄

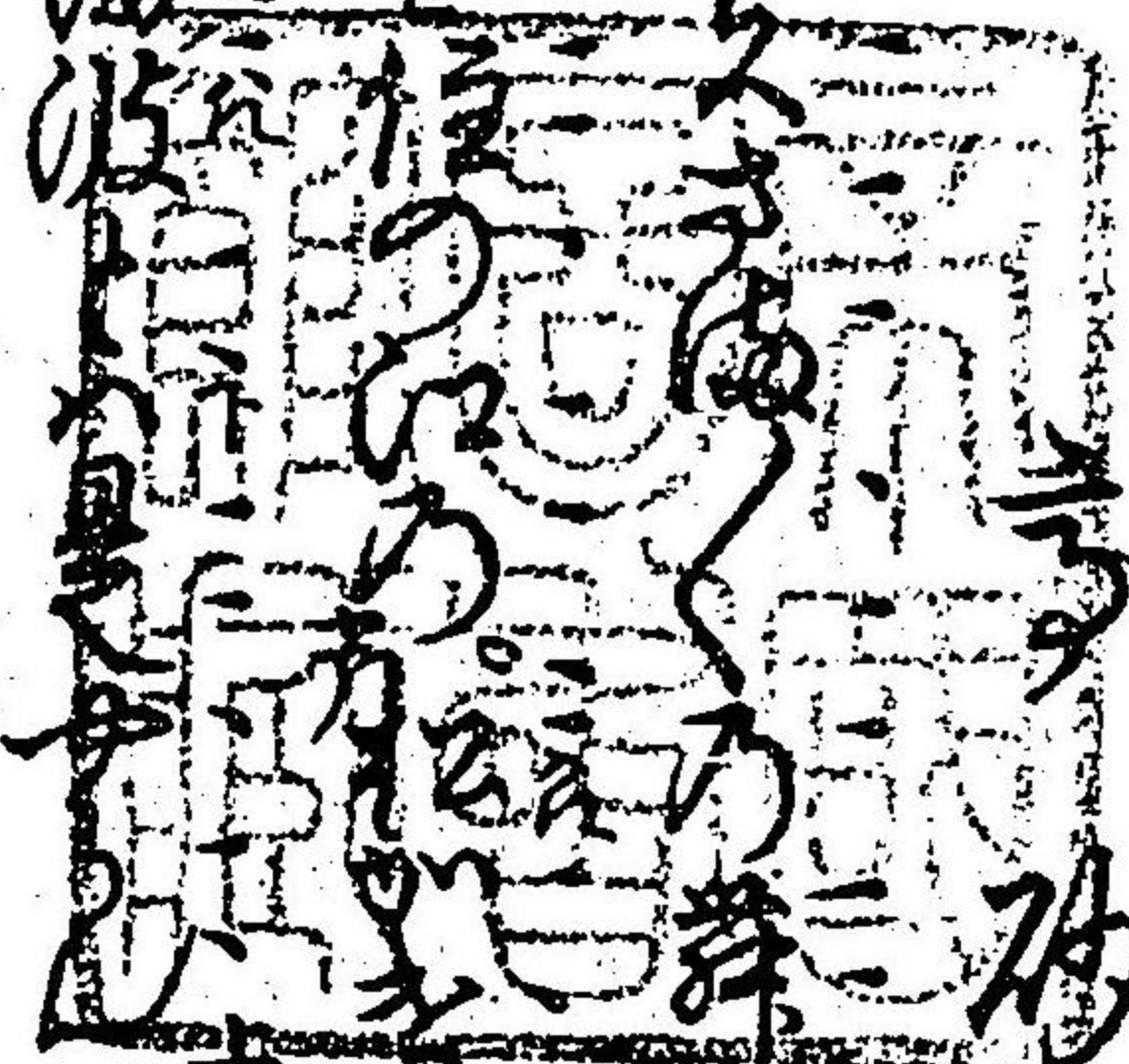
淡路	初丁	放下僧	二丁
吉野靜	二丁	籠大鼓	三丁
室君	四丁	碇潛	五丁
身延	六丁	枕土童	七丁
飛雲	八丁	放生川	九丁
須麻源氏	十丁	胡蝶	十丁
松虫	十二丁	三笑	十三丁
鳥追舟	十三丁	藤	十四丁
水邊月夜	十五丁	歌占	十六丁
雨月	十九丁	土車	廿丁
國栖	廿二丁	雷電	廿三丁
照君	廿三丁	菊土童	廿四丁
梅	廿五丁	萬野物狂	廿六丁

以上別能

以上新物

海

海波の音は
手懐の音は
海波の音は
手懐の音は



海波の音は
手懐の音は

海城樂の音は

海城樂の音は

海城樂の音は

海城樂の音は

海城樂の音は

海城樂の音は

天下を治むるの道は萬感あるを以て

萬年

萬年を以てしては其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

千年

其の道は其の道は其の道は

其の道は其の道は其の道は

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

お茶持

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

しるしをたてておぼしめす。...

松乃きき柳葉とわつく月も涼〜
早もあひつら宮家のれち鳥籠の橋のた
まのひらきとくさし三日のちのちのちのち
ち冷くおをも更て夜をまおもりのちあつぬ
千人回の水の南星をたふたきく人の入
の海つらぎの浪たらしきや品水大塊の
月も晴み水はたさるる波のちのちのちのち
をまや夜遊の舟樂の付ま〜五更の
一点鐘とあつた鳥さへまのちのちのちのち
ちあつたまのちのちのちのちのちのちのち
のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

村のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
まきれ

白樂天

夏まみより現し給え〜
賀者うひつら渡鴻三行詠方勢大田
の鹿島のの神をさし給え詠花の第三
乃雅宮あてさ海よまうさして海音あへ
まひ給えとさ大詠まのちのちのちのちのち
ま〜さ空海まのちのちのちのちのちのち
ま〜さのちのちのちのちのちのちのちのち
きて唐船のま〜ま漢まのちのちのちのちのち

昔の事... 上界の諸仏... 昔の事...

楊貴妃

楊貴妃... 南無阿彌陀佛... 楊貴妃...

楊貴妃... 手塚... 楊貴妃...

春 方

君の舟へ流る水もつらと流るる
 舟もつらと流るる水もつらと
 流るる舟もつらと流るる水も
 つらと流るる舟もつらと流る
 る水もつらと流るる舟もつら
 と流るる水もつらと流るる舟
 もつらと流るる水もつらと流
 るる舟もつらと流るる水もつ
 らと流るる舟もつらと流るる
 水もつらと流るる舟もつらと
 流るる水もつらと流るる舟も

清 經

春の光をよみては長門の海に歌せし
 心もつらと流るる水もつらと
 流るる舟もつらと流るる水も
 つらと流るる舟もつらと流る
 る水もつらと流るる舟もつら
 と流るる水もつらと流るる舟
 もつらと流るる水もつらと流
 るる舟もつらと流るる水もつ
 らと流るる舟もつらと流るる
 水もつらと流るる舟もつらと
 流るる水もつらと流るる舟も

ねむる舟もつらと流るる水も
 つらと流るる舟もつらと流る
 る水もつらと流るる舟もつら
 と流るる水もつらと流るる舟
 もつらと流るる水もつらと流
 るる舟もつらと流るる水もつ
 らと流るる舟もつらと流るる
 水もつらと流るる舟もつらと
 流るる水もつらと流るる舟も
 つらと流るる舟もつらと流る
 る水もつらと流るる舟もつら
 と流るる水もつらと流るる舟
 もつらと流るる水もつらと流
 るる舟もつらと流るる水もつ
 らと流るる舟もつらと流るる
 水もつらと流るる舟もつらと
 流るる水もつらと流るる舟も

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

司

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

通言通場ヲ^{ナラシ}無^ラカ^ニテ^ハ其^ノ法^ヲ其^ノノ^{トシ}テ^ハ...

シ^テ其^ノ法^ヲ其^ノノ^{トシ}テ^ハ...

カ^ニテ^ハ其^ノ法^ヲ其^ノノ^{トシ}テ^ハ...

ノ^{トシ}テ^ハ其^ノ法^ヲ其^ノノ^{トシ}テ^ハ...

ノ^{トシ}テ^ハ其^ノ法^ヲ其^ノノ^{トシ}テ^ハ...

寅 女

名

高城の大老勅^ヲ讀^ムマ^シ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

舞歌の曲拍子とさう入弦とびら入
きて。持来は終るも茶女の家をた
い。

同

多
松の葉よりさく散るをききて。あまの
うらあてくさる。身は流れる
地ねらう子國をなむ海はきり
ありき猿の毛の面。あまの毛の面
み。水端をさして流る。さくさく
きり。あまの毛の面。あまの毛の面
きり。あまの毛の面。あまの毛の面

あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面

浦小町

あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面

あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面

あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面
あまの毛の面。あまの毛の面

あすの将交のまゝ故きしへひら
つろひの飲酒のちまふまのちりし
ありまへもあつたなとさき
と一合のぼりさへなほくのし
儼してお拜のお野へせし将のまは
道ありまたり〜

小曲曾歌

上
舞のりか〜れ其のまは〜兄弟月
とひら〜れや〜の親子の慕う
と思へ〜れ〜し〜る多〜あ〜れ
うらま〜し〜海〜老〜あ〜し〜と〜暇〜す〜て〜ぬ

おのひの整ひのつたおとえて幸
のか〜し〜な〜整ひ〜き〜した〜る〜お
まよ〜算〜書〜の〜ほ〜の〜ち〜の〜き〜り〜の〜留
まは〜り〜よ〜ま〜あ〜して〜月〜と〜借〜を〜用〜よ
終〜ま〜る〜の〜あ〜と〜あ〜お〜兄〜弟〜お〜孝
行のた〜め〜あ〜し〜ら〜あ〜い

竹生鳴

ミテト
さ〜ら〜ち〜よ〜う〜の〜さ〜ま〜さ〜度〜は〜整〜ひ〜の〜海
ま〜あ〜ま〜あ〜た〜ん〜成〜ら〜ま〜井〜ら〜も〜ら〜ん〜と〜ま〜な
有縁の直生書諸のくもあつた
下果の龍が〜あ〜し〜と〜團〜ま〜あ〜ら〜し〜

... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣

同

名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣

名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣
... 名... 西の方... 内陣

鶴

上野... 東三條の林頭お背へ飛行し...
 ... 計のよれくは...
 ... 即津...
 ... たま...
 ... 頼...
 ... 美は...
 ... 子...
 ... 社

... 感...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...
 ... 頼...

小ねりし花の影をみれば
新に咲きしはさきと
別りたれども
花の影をみれば

同

あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば

あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば
あはれき花の影をみれば

申さるる所の音味のよしと松風
またくも有染の音小面うけ
まらりや蹟

般若歌

在る所の清なる法華一仏今西方の
臨港如來。慈眼視る中あらしめて
まゝ者のまゝに觀音菩薩の音同一時
有難や就かためた悲願あり
若くは佛のまゝに

さる力ありての音は法は法は法母の
まゝに掉はくはまゝに音のまゝに
まゝにして樂を極の國の道あはれ也
まゝに佛のまゝにの音のまゝに
まゝに佛のまゝにの音のまゝに
まゝに佛のまゝにの音のまゝに

同

まゝに佛のまゝにの音のまゝに
まゝに佛のまゝにの音のまゝに
まゝに佛のまゝにの音のまゝに
まゝに佛のまゝにの音のまゝに
まゝに佛のまゝにの音のまゝに

いふはまをたふしにんかむ
大言人のしはたのさ
回するははは枝きん
昔の音きは柳様ふ
さかの諸人のさ
際深くするの
のこ細も
ま柏本
あやはる
かむ
よひの

同

見はる
あや
柳
ま
校
ま
ま
ま

糸の成の草花の枝のさし束の繋ぐ
の地まの鎌者上人の法流再受秋の
成らしちてしちる女の姿の影の敷く
み露のさしちのさちりりへくゆり葉
と疎に打ちたさちつちみさつ

藤戸

花の成の草花の枝のさし束の繋ぐ
の地まの鎌者上人の法流再受秋の
成らしちてしちる女の姿の影の敷く
み露のさしちのさちりりへくゆり葉
と疎に打ちたさちつちみさつ

花の成の草花の枝のさし束の繋ぐ
の地まの鎌者上人の法流再受秋の
成らしちてしちる女の姿の影の敷く
み露のさしちのさちりりへくゆり葉
と疎に打ちたさちつちみさつ

栴の舟は浮入りのみありて掉はしりて
ては頼まぬまは風の海はこころを
秘するは情はあきくもなほあは
なうくしてはあきくもなうくして
まのしりたつたのまにあつぬ所たの
身もあつたなう

杜若

多勢まは世中のまはなり度
あはれうめはあつたのまにあつた
まのまはれはあつたのまにあつた
東の方より行雲のまにあつた

あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた
あつたのまにあつたのまにあつた

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

西行様

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

あらうかゝる

葛城

一、あらうかゝる
 二、あらうかゝる
 三、あらうかゝる
 四、あらうかゝる
 五、あらうかゝる
 六、あらうかゝる
 七、あらうかゝる
 八、あらうかゝる
 九、あらうかゝる
 十、あらうかゝる
 十一、あらうかゝる
 十二、あらうかゝる
 十三、あらうかゝる
 十四、あらうかゝる
 十五、あらうかゝる
 十六、あらうかゝる
 十七、あらうかゝる
 十八、あらうかゝる
 十九、あらうかゝる
 二十、あらうかゝる

一、あらうかゝる
 二、あらうかゝる
 三、あらうかゝる
 四、あらうかゝる
 五、あらうかゝる
 六、あらうかゝる
 七、あらうかゝる
 八、あらうかゝる
 九、あらうかゝる
 十、あらうかゝる

同

一、あらうかゝる
 二、あらうかゝる
 三、あらうかゝる
 四、あらうかゝる
 五、あらうかゝる
 六、あらうかゝる
 七、あらうかゝる
 八、あらうかゝる
 九、あらうかゝる
 十、あらうかゝる

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

東宮君上

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

東宮

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

青い花は花の心は青い花の心
みは花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心

文類

青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心
青い花の心は青い花の心

角田

花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心

花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心
花の心は青い花の心

春はきくともたかくとくは
 りく

春日龍舟

^ト岸^ニ 大龍舟^ノ 乗り^テ 冠^トも^シ 舟^ノ 幸^ナ べ
 白^ク 船^ノ の 日^ト 影^ト 舟^ノ の 影^ト 入^リ
 野^ノ 守^ノ も^シ て^シ 人^ノ 摩^リ 耶^ノ
 の 誕^メ 地^ト 鳥^ト 幸^ナ べ^ニ 法^ト 双^ト 枝^ト 枝^ト 入^リ 妙^ニ
 心^ノ 終^ニ 目^ノ 影^ト 舟^ノ 上^ニ
 人^ノ 徳^ト 入^リ 唐^ノ 船^ノ 一^ツ 後^ト 天^ノ 草^ト 入^リ
 日^ノ 影^ト 舟^ノ 上^ニ 徳^ト 仏^ト 跡^ト 舟^ノ 上^ニ 幸^ナ べ^ニ
 や^ノ 幸^ナ べ^ニ の 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ

舟^ノ 上^ニ 幸^ナ べ^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ
 龍^ノ 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ
 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ
 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ
 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ 舟^ノ 上^ニ 妙^ニ

松橋

^ト岸^ニ 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト
 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト 舟^ノ の 影^ト

さし満てきまのさのさうのし
うらむのさのさのさのさのさ
まへまのさのさのさのさのさ
のさのさのさのさのさのさの
舟橋のさのさのさのさのさの
ぬうと執のさのさのさのさの
三途のさのさのさのさのさの
のさのさのさのさのさのさの
のさ執のさのさのさのさのさ
とさのさのさのさのさのさの
は味切力はさのさのさのさの
ゆきさく

保氏借巻

空蟬のさのさのさのさのさ
鳥のさの命を觀のさのさのさ
むう末摘のさのさのさのさの
れ賀の秋のさのさのさのさの
まへはさのさのさのさのさの
のりてはさのさのさのさのさ
のさのさのさのさのさのさの
のさのさのさのさのさのさの
のさのさのさのさのさのさの

女
保氏借巻

おのゝくしよ ねさうや かく
未世まらむし 月日地よあらま
ま せいしんま せきんま せきんま
あやあしん ねさうや ねさうや
のちのちのちのちのちのちのち
ひて せいしんま せいしんま
のちのちのちのちのちのちのち
まをせ せきんま せきんま
たうし せいしんま せいしんま
まをせ せいしんま せいしんま
あれたあしん せいしんま せいしんま

礼あり 南無天照皇太子言天
長地久と せきんま せきんま
手とあしん せきんま せきんま
ひて せいしんま せいしんま
やあしん や せきんま せきんま
花うしん せいしんま せいしんま
まをせ せいしんま せいしんま
まをせ せいしんま せいしんま
のちのちのちのちのちのちのち
手あしん せいしんま せいしんま
月とあしん せいしんま せいしんま

てはかろく

同

見津門がくき歌をせ給うて其の所
 かこちく井泉殿のさかきうし
 我と書圖のさそひく言言歌
 給ひく。さききた中へ思ひひ
 まりきたわびかきくあまひ
 かく歌を給ひく。さきうと申さき
 のさきさきまきく又常よ
 そり〜給ひく。さきま人のさ
 是。上界の舞楽ぐりさきく

他女あり。且人同よ。さきくさき
 も給ひく。他言お海りぬ。泰
 君よまうし。さきま人の面影さ
 けく。さきまの〜。さき九花
 け中あり。及還音とたき給ひ。さ
 あり人さき。さき。さき。月
 秋さき。さき。さき。さき。さき
 さき。さき。さき。さき。さき。さき
 思の葉とさき。さき。さき。さき。さき
 手あり。さき。さき。さき。さき。さき
 つさ。さき。さき。さき。さき。さき

カ

三

米コメの種タネを播まき、水ミヅを灌そぐ、土ツチを肥こやし、
日ヒを浴あび、風カゼを耐しのぐ、秋アキの實ミを刈とり、
冬フユの雪ユキを被おかす、春ハルの雨アメを待まち、
夏ナツの暑あつさを耐しのぐ、米コメは天アマの恵めぐみ、
地チの力ちから、人ヒトの勤こつみ、
米コメは天アマの恵めぐみ、地チの力ちから、
人ヒトの勤こつみ、

米

米コメの種タネを播まき、水ミヅを灌そぐ、土ツチを肥こやし、
日ヒを浴あび、風カゼを耐しのぐ、秋アキの實ミを刈とり、
冬フユの雪ユキを被おかす、春ハルの雨アメを待まち、
夏ナツの暑あつさを耐しのぐ、米コメは天アマの恵めぐみ、
地チの力ちから、人ヒトの勤こつみ、

米コメの種タネを播まき、水ミヅを灌そぐ、土ツチを肥こやし、
日ヒを浴あび、風カゼを耐しのぐ、秋アキの實ミを刈とり、
冬フユの雪ユキを被おかす、春ハルの雨アメを待まち、
夏ナツの暑あつさを耐しのぐ、米コメは天アマの恵めぐみ、
地チの力ちから、人ヒトの勤こつみ、

同

米コメの種タネを播まき、水ミヅを灌そぐ、土ツチを肥こやし、
日ヒを浴あび、風カゼを耐しのぐ、秋アキの實ミを刈とり、
冬フユの雪ユキを被おかす、春ハルの雨アメを待まち、
夏ナツの暑あつさを耐しのぐ、米コメは天アマの恵めぐみ、
地チの力ちから、人ヒトの勤こつみ、

... 日影のなほ...
... 清風を吹いて...
... 舞の影の...
... たりく...
... とも...
... も...
... 老

壽豊

... 東と...
... 西...
... 吹...
... 地...
... 後...
... 力...
... の...
... の

芭蕉

... 水...
... 湯...
... の

へんすんせりへんせり
 りんせりるりるりるり
 せりんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり

へんせりるりるりるり

回

へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり

りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり
 りんせりるりるりるり
 へんせりるりるりるり

かゝる人々の功徳の徳の
まはすにやうやくの徳の徳の
年々の徳徳の徳の徳の徳の徳の
大寺の柳陰の子のゆく白雲の
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの

まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの

かゝるにや。中り成れあまきき。二仏れ
中間成り。わんてれ。成りあ。みち
あ。い。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
非かと現して。天竺震旦。神聖三皇
子。き。き。き。き。き。き。き。き。き。き。
終つり。善。善。善。善。善。善。善。善。善。善。
摩那夫人のき。孝。娘のは。為。お。れ。の
ま。い。は。母。と。多。く。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
ま。い。や。人。回。り。ま。い。や。ち。と。あ。さ。さ。の。母。と
あ。ま。い。は。い。ま。い。は。い。ま。い。は。い。ま。い。は。い。ま。い。は。い。ま。い。は。い。

感歎してそ祈りき。親子あ。ま。い。の
神。あ。れ。や。百。百。り。舞。う。と。ん。娘。人。

船奇慶

く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。く。せ。
恥とす。き。
天の道。心。を。そ。き。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。
師のき。
若命の。月。の。お。く。り。お。く。り。お。く。り。お。く。り。お。く。り。お。く。り。お。く。り。お。く。り。お。く。り。

の清子越へは身代料のあつても
美敷いほりへ頼朝も終ふらむとく昔
柳の芽枝とつらぬは契あへん
朽しをほく

同

上
身代料は植て天自九代のはれ平の
知感出重あり。甚好やうに義経
思ふもよりの浦波の音とあふ出
舟のうぐき。知感の音とあふ
まよふ。美敷いほりへ頼朝も終ふらむとく昔
柳の芽枝とつらぬは契あへん
朽しをほく

への故あつてもねむ。御とあつて
要のよきも眼とあつてもあつて
て前なるも詩あり。其時
義経女もつらぬ。しらお接
おつらぬ。人よもつらぬ。言はれ
かりたうむ。鈴の。年慶あつて
てうら物とあつてもあつて
お珠あつてもあつて。東の方
降之。南方軍。利あつて。西方大威。佳
北方。金剛。夜あつて。中央。大。不動。明
まろ。あつてもあつて。あつてもあつて

雲見... 子力と合... 海松... 雲見... 子力と合... 海松... 雲見... 子力と合... 海松...

右

東南西... 雲見... 子力と合... 海松... 雲見... 子力と合... 海松...

上... 雲見... 子力と合... 海松... 雲見... 子力と合... 海松...

女郎花

名... 頼... 雲見... 子力と合... 海松... 雲見... 子力と合... 海松...

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

三輪

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

二六二...
 の跡を尋ね出さしめし出ましく...
 まあくやゆの陰の山科の里人の...
 昔あまや御女あれと云信馳川と...
 みるる...
 みまへ今やひくし...
 のあまの...
 山科の陰まれば...
 やうきり井の...
 のみ...
 の跡

の跡...
 の跡...
 の跡...

御

足よる...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...
 の跡の...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

子 塩

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

四

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

耶 鄂

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

道しんまのびつらふりきて其れ
下は射きられて即時に命とり
たつらよまふたつて息を露しれ
てもお執りし世もあつてさ敷
生るもきしつたりし世もあつて
あれよとあつてさつてさつて
きては世もあつてさつてさつて
つらつては世もあつてさつて
とあつてさつてさつてさつて
破く世もあつてさつてさつて
なり

野宮

トシテ、
身は直りて義の庭にあり
位は多しとめりかえり
りある多し染垣多きつらつて
きつて世もあつてさつてさつて
て世もあつてさつてさつてさつて
つらつては世もあつてさつて
きつて世もあつてさつてさつて
まし車もあつてさつてさつて

のまきうちきしこて疏雲のあまき
ちくてき藩見の井のさあろの山
とうきして藤の岐はうき流るる
あまきあうきさうきさうきさうき
さうきさうきさうき

同

多なうきさうきさうきさうき
白れあうきさうきさうき
まじさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき

時うきしてまう羽衣浦のあまき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき

あまき

あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき
あまきさうきさうきさうき

輝鷹の... 接夜... 野... 神... 源... 果... 同

同

果... 輝鷹... 接夜... 野... 神... 源... 果... 同

ふいたまふ侍僧よせしそあめりし日
あそむ徳島の事いふのきしおの海扇
のきし若の海おきし海いしそあめり
あそむ徳島の事いふのきしおの海扇

鳴

美たむよあめりしそあめりし日
あそむ徳島の事いふのきしおの海扇
のきし若の海おきし海いしそあめり
あそむ徳島の事いふのきしおの海扇
判官まは馬とすきよききききき
若水信能登のきしおの海いしそあめり
馬よりのきしおの海いしそあめり

あそむ徳島の事いふのきしおの海扇
のきし若の海おきし海いしそあめり
あそむ徳島の事いふのきしおの海扇
のきし若の海おきし海いしそあめり
あそむ徳島の事いふのきしおの海扇
のきし若の海おきし海いしそあめり

江野鴻

^{ニ下}神仏水波の隔まり。神仏の波のなま
 てあれど同一種の利益をたまは
^上れ。衆生の惑を解するの神徳
 なる百千劫の輪を穿ししと物諸か
 ぎ兒を回してひきまひなるとも
 みまのり海を流る一人の袂の波
 もたのり舟の針をちまらしむる
 雲とやあはれなく眼のひら
 の天地を縫えたり。時天部の喜王子
 却伴ひ遊雲のしるふあはれは
 給人

ト

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

別表

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

西王母

一、
 二、
 三、